

## 令和8年度 第1回 金指小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年5月1日（金）14時から15時50分まで
- 2 開催場所 金指小学校 さかみちホール
- 3 出席委員 高須 俊二、山本 繁夫、黒瀬 憲太郎、岩崎 美千代、石原 彰浩、高木 克芳、内山 康子、河西 真妃
- 4 欠席委員 巨島 信慶、浅井 多恵子
- 5 学 校 前田 一成（校長）、柳田 葉子（教頭）、清水 康代（CS担当教員）、入手 佑香（CSディレクター）
- 6 教育委員会 磯部 志保
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 入手 佑香
- 9 議長の選出  
山本委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。
- 10 協議事項
  - (1) 令和8年度学校運営基本方針の確認について
  - (2) 夢育やらまいか事業（CS加算分）に対する意見書について
  - (3) 生活・総合イベントについて

### 11 会議記録

司会の教務主任から、委員総数10人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

#### (1) 令和8年度学校運営基本方針の確認について

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき、学校運営基本方針について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 文部科学省の研究校として、今後2年間にわたり取り組むことになるが、令和9年度においては、どのような方向性で進めたいと考えているのか。  
(石原委員)
- ・ 今年度は、子供たちと共に手探りながら、生活・総合イベントを含めさまざまなものを創り上げていきたい。次年度には、さらに充実した内容にしていきたいと考えている。(校長)
- ・ 文部科学省の研究指定校には、期限が設定されているのか。(山本委員)
- ・ 期間は2年間とし、浜松市教育センターの指導主事も加わり、最新の文部科学省からの知見を取り入れながら、計画を進めていく。(校長)
- ・ 児童数の減少が進む中で、研究の取り組みを進めていくことが難しくなる可能性はないのか。(山本委員)
- ・ 小規模校のメリットは、児童数が少ないことにより、子供たちの交流がより深まり、充実した時間を過ごすことができる。また、コンパクトな環境だ

からこそ、探究やさまざまな取り組みを積極的に進めることができ、その魅力や利点を効果的に発信できると考えられる。(校長)

- ・ 金指地域は子供たちにとって恵まれた環境であり、皆が平等に金指のことを考えることができ、地域の方々も温かく見守ってくれている。今回の研究校の取り組みは、地域の皆さまと協力して盛り上げ、2年間で具体的な成果が形になることを期待している。(教頭)
- ・ 授業時間を5分間削減した分を、生活科や総合的な学習の時間に充てているのか。(黒瀬委員)
- ・ 削り出した時間は、探究や学びを深めるための時間と教員が研修を行う時間として活用している。(校長)
- ・ 金指地域の住民には、学校の基本方針がまだ十分に浸透していないと感じる。今後は、地域の方々に学校の方針を理解していただき、協力体制を築くことが課題となる。(高須委員)
- ・ 年度初めに自治会長が集まる機会に、学校としての方針を説明しているのか。(高木委員)
- ・ 学校の方針を自治会長に伝えることで、学校の思いと地域の思いが一致しやすくなり、その結果、運営協議会委員から自治会長への相談もスムーズになり、より良い連携を図ることができる。(高木委員)
- ・ 自治会長には、4月23日に研究校の概要説明を行い、御協力をお願いしたい旨をお伝えし、自治会長からは、力になれることがあれば協力してくれるとのことのお言葉をいただいている。(校長)  
協議の結果、令和8年度学校運営基本方針について、全員が異議なくこれを承認した。

(2) 夢育やらまいか事業(CS加算分)に対する意見書について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき『夢育やらまいか事業』について説明があり、全員意義なくこれを承認した。

(3) 生活・総合イベントについて

議長の指示により、教頭から生活・総合イベントについて説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 学校として、学習や活動を充実させるために、どのような人材を必要としているのか。(高木委員)
- ・ 低学年の活動は主に野菜作りとなるため、野菜の育て方を教えてくださいの方がいらっしやると大変ありがたい。(教頭)
- ・ 12月には、実相の森で採れた竹を使い、門松を作っている。(山本委員)
- ・ 10月3日のイベントは、探究してきたことを発表する場であるとともに、みんなで楽しむこともできる場というイメージでよいか。(内山委員)
- ・ ブースの一つに、よさこいの披露を行う場を設けてもらえると、フルーツパークで出場予定のイベントに向けて中学生へのPRにもつながり、子供か

ら大人まで多くの方に見ていただく良い機会になる。(内山委員)

- ・ 体育館での活動について、ブースを設けて各活動を行う形式にするのか、それとも、時間帯を設定して学年団ごとに発表の時間を設ける形式にするのか。(高木委員)

- ・ 大人がすべてを決めてしまうのではなく、探究を進める中で「こんなこともできるかもしれない」と柔軟な考え方を持つことが大切だと思う。

(内山委員)

- ・ 協力体制については、シニアの方々に協力していただいているが、学校までの行き来の負担を考慮すると、若い世代やさまざまな分野に長けた方々にも協力をお願いしていきたい。(内山委員)

- ・ イベント当日の参加者(児童の家族・金指住民・運営協議会委員)はどのように関わるのか具体的なイメージ浮かばない。(石原委員)

- ・ 招待チケットの配布について、招待チケットを受け取った方は、どのような立場で学校に来ることになるのか。(石原委員)

- ・ お客様としてご来校いただく。子供たちがアイデアを考えている最中で、どのようなものを用意できるか、また何をやりたいのかを検討している。

(教頭)

- ・ 子供たちから、「良い作品ができた」「楽しい」と感じた思いを家族や地域の皆さまに伝え、みんなで楽しみながら喜んでもらえる形にしたいと考えている。(教頭)

- ・ 子供たちには、40分間の時間枠の中で、他学年の活動を見学する時間と、自分たちがサービスを提供する時間の両方を体験させてあげたい。(教頭)

- ・ プレイメントのような、子供たち同士で事前に体験できる機会はあるか。

(内山委員)

- ・ 現時点ではプレイメントは考えていないが、今後、子供たちの中でそのような声上がる可能性もある。(教頭)

- ・ 事前に子供たち同士で発表を行い、当日は地域の方々に向けて披露するのが良いと思う。(内山委員)

- ・ 生活・総合イベントのための事前準備ではなく、子供たちの思いを形にすることを重視している。その結果、参加者に喜んでいただくことが、子供たちの自信や成長に繋がると考えている(教頭)

- ・ 今回のイベント活動は、学年団となっているが、活動の進め方については改善の余地があると思う。(高須委員)

- ・ 子供たちが活動を進める中で、地域の方々に「見てもらいたい」「知らせたい」「教えたい」といった気持ちを伝えるために、チラシやポスターを作成し、学校へ招待するまでの流れを教員が適切に導く必要がある。(黒瀬委員)

- ・ 中学年のお年寄りとの交流活動は、昔の遊びのようなイメージをしているのか。(黒瀬委員)

- ・ お年寄りと遊ぶだけでなく、例えば、金指の素敵なことをインタビューした内容の「金指すごろく」を作成し10月3日にみんなで楽しむのも一つのア

アイデアだと思う。(教頭)

- ・ 販売物について、子供たちは物を売ることは楽しいと思う。実際のお金を使わなくても、チケットなどを使い、体験を通じて売上を実感できる仕組みも良いのではないか。(黒瀬委員)
- ・ 一部のボランティアの方々が中心となることで、活動範囲が限定されてしまい、活動内容が地域全体へ広がりにくくなってしまうという懸念があるのではないか。(高須委員)

## 12 報告

教頭から金指小学校いじめ防止基本方針について、家庭・地域と学校が一体となっていじめ防止に取り組むことができるよう、委員の理解を深めた。

## 13 その他連絡事項等

司会から、第2回学校運営協議会は、9月9日(水)午後2時からさかみちホールで開催する旨の報告があった。